

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：李鎮栄
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：okilee70@ybb.ne.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1091
4	1	通年	研 213	オフィスアワー
				月木 13:00 から 15:00

1. 講義内容

論文の書き方はもちろん、論文調のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文」が生産できるように指導していく。

2. 履修要件

学術論文の生産者になりえるように文章の細やかな吟味ができる院生が望ましい。

3. テキスト

特に設けないが、必要に応じて紹介する。

4. 参考文献

特に無し

5. 講義予定

- 第 1 回 演習の概要・オリエンテーション
- 第 2 回 論文のタイトルのつけ方：自然科学と人文科学
- 第 3 回 論文のタイトルの作成 1
- 第 4 回 論文のタイトルの作成 2
- 第 5 回 論文のタイトルの作成 3
- 第 6 回 論文の構成要素と実践 1
- 第 7 回 論文の構成要素と実践 2
- 第 8 回 論文の構成要素と実践 3
- 第 9 回 序文の構成要素と実践例 1：修論中間発表会練習
- 第 10 回 序文の構成要素と実践例 2：修論中華発表会練習
- 第 11 回 序文の構成要素と実践例 3
- 第 12 回 序文の構成要素と実践例 4
- 第 13 回 序文の構成要素と実践例 5
- 第 14 回 序文の実践 1
- 第 15 回 序文の実践 2

※後期日程にあわせて各週の予定を延ばしていく。

6. 評価方法

成就度	70点
発表力	30点
合計	100点

7. その他

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：新垣 裕治
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：arakaki@mail.meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1081
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	202	月(4時限)・木(3時限)

1. 講義内容

新たな観光の分野としてエコツーリズム (Ecotourism) が世界的に注目を浴びている。日本では '90 年になり一般的に使われるようになってきた用語で、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。沖縄県では、1996 年に日本初の西表島エコツーリズム協会が設立、その後 '99 年には日本で 2 番目の東村エコツーリズム協会が設立され、エコツーリズムの取組みが比較的早くから起こった先進地域と捉えられている。しかし、現状としてはエコツーリズムの導入 (エコツアー実施) による環境の悪化等様々な問題が顕在化し、必ずしもいい状態であるとは言えない。本演習では、このような様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を主に環境の側面から行うことを目的として行われる。

2. 履修要件

生物学、生態学、環境科学に関する知識を有することが望ましい。

3. テキスト

必要応じ書籍や論文などの資料により対応する。

4. 参考書

5. 講義予定

前期

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回～7 回 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 8 回 前期中間まとめ・発表研

第 9 回～14 回 研究テーマの検討及び研究計画作成

第 15 回 前期期末まとめ・発表研 (課題テーマ及び研究計画の決定)

後期

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回～7 回 研究計画及び実施

第 8 回 後期中間まとめ・発表研

第 9 回～14 回 研究計画及び実施

第 15 回 後期期末まとめ・発表研 (研究の中間発表)

6. 評価方法

研究発表 60点

活動状況 (課題への取り組みの積極性等) 40点

合計 100点

7. その他

特になし

科目名	観光環境研究演習 I			担当教員：大谷 健太郎
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1088
4	1	通年	209	オフィスアワー
				月曜4限、木曜3限

1. 講義内容

本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。

したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、フィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。

また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。

2. 履修要件

観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

3. テキスト

必要に応じて論文や書籍などで対応する。

4. 参考書

相川哲夫・栗原伸一（2001）『政策評価手法論－農村地域のソフトシステム型計画における－』農林統計協会。

室谷正裕（1998）『新時代の国内観光－魅力度評価の試み』運輸政策研究機構。

Hatry, H. P. (1999) *Performance Measurement: Getting Result*, The Urban Institute.

土居英二編（2009）『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析－熱海市と静岡県における新公共経営（NPM）の実践－』日本評論社

宮嶋勝（1990）『公共政策論』学陽書房、1,500円。など、その他、講義中に紹介する。

5. 講義予定

第1回	演習の概要、オリエンテーションⅠ	第16回	中間報告に向けた確認
第2回	演習の概要、オリエンテーションⅡ	第17回	論文テーマ検討Ⅲ
第3回	論文報告のスケジュール確認	第18回	論文テーマ検討Ⅳ
第4回	研究計画確認	第19回	フィールドワーク計画Ⅰ
第5回	論文テーマ検討Ⅰ	第20回	フィールドワーク計画Ⅱ
第6回	論文テーマ検討Ⅱ	第21回	フィールドワーク計画Ⅲ
第7回	研究計画の作成方法指導	第22回	フィールドワーク計画Ⅳ
第8回	研究計画の作成Ⅰ	第23回	一次資料の扱い方
第9回	研究計画の作成Ⅱ	第24回	統計分析Ⅰ
第10回	論文の書き方Ⅰ	第25回	統計分析Ⅱ
第11回	論文の書き方Ⅱ	第26回	研究計画の修正Ⅰ
第12回	先行研究や関連研究の報告Ⅰ	第27回	研究計画の修正Ⅱ
第13回	先行研究や関連研究の報告Ⅱ	第28回	修士論文概要報告準備Ⅰ
第14回	タイトル発表会準備指導Ⅰ	第29回	修士論文概要報告準備Ⅱ
第15回	タイトル発表会準備指導Ⅱ	第30回	修士論文概要報告準備Ⅲ

・活動状況（ディスカッション、参加積極性など） 40点

・修士論文、研究の内容 30点

・プレゼンテーション 30点

・合計 100点

■欠席6回以上は対象外

論文形式（特定テーマ）で発表

7. その他

履修の心得：周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。

講義において随時、観光研究、政策科学、観光政策、関連または各自研究テーマに関する論文（英語、日本語）を精読し、要約および考察を発表してもらう。

科目名	観光環境研究演習Ⅱ			担当教員：李鎮栄
科目名(英語)	Tourism and Environment SeminarⅡ			メールアドレス：okilee70@ybb.ne.jp 研究室電話番号：0980-51-1091
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	前後	研 213	月木 13:00 から 15:00

1. 講義内容

論文の書き方はもちろん、論文調のフォーマルな文の書き方について指導していく。演習なので「論文」が生産できるように指導していく。

2. 履修要件

学術論文の生産者になりえるように文章の細やかな吟味ができる院生が望ましい。

3. テキスト

特に設けませんが、必要に応じて紹介する。

4. 参考文献

特に無し

5. 講義予定

- 第 1 回 演習の概要・オリエンテーション
 - 第 2 回 序文と本文の章立て 1
 - 第 3 回 序文と本文の章立て 2
 - 第 4 回 本論の構成と実践 1
 - 第 5 回 本論の構成と実践 2
 - 第 6 回 本論の構成と実践 3
 - 第 7 回 本論作成と註の例 1
 - 第 8 回 本論作成と註の例 2
 - 第 9 回 本論作成と註の実践 1
 - 第 10 回 本論作成と註の実践 2
 - 第 11 回 修論中間発表練習 1
 - 第 12 回 修論中間発表練習 2
 - 第 13 回 本論ドラフト 1
 - 第 14 回 本論ドラフト 2
 - 第 15 回 本論ドラフト 3
- ※後期日程にあわせて各週の予定を延ばしていく。

6. 評価方法

成就度 70点
発表力 30点
合計 100点

7. その他

科目名	観光環境研究演習 II			担当教員：新垣 裕治
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar II			メールアドレス：arakaki@mail.meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1081
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	202	月(4時限)・木(3時限)

1. 講義内容

同演習 I で行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。

2. 履修要件

同演習 I を修得済みであること。

3. テキスト

必要応じ書籍や論文などの資料により対応する。

4. 参考書

5. 講義予定

前期

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～7 週 調査・研究実施及びまとめ(データの整理分析等)

第 8 週 前期中間まとめ・発表研

第 9 週～14 週 調査・研究実施及びまとめ(データの整理分析等)

第 15 週 前期期末まとめ・発表研(この段階で殆どの調査・研究は終了していること)

後期

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週～10 週 修士論文作成

第 11 週 後期中間まとめ・発表研(この段階で論文は殆ど完成していること)

第 12 週～15 週 最終発表のスライド作成等

6. 評価方法

修士論文の内容	60点
研究発表:	30点
活動状況(課題への取り組みの積極性等):	10点
合計:	100点

7. その他

特になし

科目名	観光環境研究演習 II			担当教員：大谷 健太郎
科目名(英語)	Tourism and Environment Seminar I			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1088
4	2	通年	209	オフィスアワー
				月曜4限、木曜3限

1. 講義内容

演習 I に引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習 I で得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。

また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。

2. 履修要件

演習 I を履修していること。演習 I と同様に、観光学および経済学、政策科学などの知識を有すること。学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

3. テキスト

各自のテーマにあわせた論文や書籍などを使用する。

4. 参考書

適宜、講義中に紹介する。

5. 講義予定

第 1 回	オリエンテーション I	第 16 回	研究計画再検討 III
第 2 回	オリエンテーション II	第 17 回	研究計画再検討 IV
第 3 回	修士論文のスケジュール確認	第 18 回	修士論文の作成と読み合わせ IV
第 4 回	研究計画再検討 I	第 19 回	修士論文の作成と読み合わせ V
第 5 回	研究計画再検討 II	第 20 回	修士論文の作成と読み合わせ VI
第 6 回	修士論文の作成と読み合わせ I	第 21 回	修士論文の作成と読み合わせ VII
第 7 回	修士論文の作成と読み合わせ II	第 22 回	修士論文の作成と読み合わせ VIII
第 8 回	修士論文の作成と読み合わせ III	第 23 回	修士論文の作成と読み合わせ IX
第 9 回	フィールドワーク計画 I	第 24 回	修士論文の作成と読み合わせ X
第 10 回	フィールドワーク計画 II	第 25 回	修士論文の完成、確認
第 11 回	フィールドワーク計画 III	第 26 回	修士論文最終報告準備 I
第 12 回	進捗状況の確認と指導	第 27 回	修士論文最終報告準備 II
第 13 回	中間発表準備および指導 I	第 28 回	修士論文最終報告準備 III
第 14 回	中間発表準備および指導 II	第 29 回	演習内修士論文発表
第 15 回	中間発表準備および指導 III	第 30 回	まとめ

・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など)	20点
・修士論文、研究の内容	70点
・プレゼンテーション	10点
・合計	100点

■欠席 6 回以上は対象外

7. その他

履修の心得：周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。

講義において随時、観光研究、政策科学、観光政策、関連または各自研究テーマに関する論文（英語、日本語）を精読し、要約および考察を発表してもらう。

科目名	観光開発特論			担当教員：大谷 健太郎
科目名(英語)	Tourism Development & Management			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1088
2	1, 2	前	209	オフィスアワー
				月曜4限、木曜3限

1. 講義内容

観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。

本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。

2. 履修要件

学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

3. テキスト

講義毎に資料を配布する。

4. 参考書

羽田耕治監修 (2008) 『地域振興と観光ビジネス』 ジェイティービー能力開発。

(社) 日本観光協会 (1983) 『観光計画の手法』 日本観光協会。

尾家建生、金井萬造 (2008) 『これでわかる！着地型観光—地域が主役のツーリズム』 学芸出版社。

藤井聡 (2008) 『土木計画学—公共選択の社会科学』 学芸出版社。

Gee, C. Y. (1996) *Resort Development and Management*, Educational Institute of the Amer Hotel.

Hall, C. M. (2008) *Tourism Planning: Policies, Processes & Relationships*, Prentice Hall.

Mason, P (2008) *Tourism Impacts, Planning and Management*, Butterworth-Heinemann.

5. 講義予定

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 観光開発に関わる基礎知識 (1) —観光・リゾート開発と観光地開発 |
| 第 3 回 | 観光開発に関わる基礎知識 (2) —観光資源と観光施設 |
| 第 4 回 | 観光開発に関わる基礎知識 (3) —社会的、文化的インパクト① (経済効果) |
| 第 5 回 | 観光開発に関わる基礎知識 (4) —社会的、文化的インパクト② (生活の質への影響) |
| 第 6 回 | 観光需要と需要予測、入込と月別変動、観光需要の予測手法 |
| 第 7 回 | プレゼンテーション (観光開発関連分野における論文精読など) |
| 第 8 回 | 観光開発と社会資本の整備 (1) —観光交通の特性 |
| 第 9 回 | 観光開発と社会資本の整備 (2) —観光交通政策 |
| 第 10 回 | 観光開発の目標設定と計画策定 |
| 第 11 回 | 開発計画の評価手法 (1) プロジェクトの評価と費用便益・費用対効果分析 |
| 第 12 回 | 開発計画の評価手法 (2) 環境の経済的評価と旅行費用法、仮想市場法 |
| 第 13 回 | 海洋リゾート、温泉、文化観光、エコツーリズムの開発事例 |
| 第 14 回 | プレゼンテーション (各自研究分野における論文精読など) |
| 第 15 回 | 観光開発の課題と方向性—望ましい観光と理念 (沖縄県を中心として) |

6. 評価方法

- ・ スカッション、参加積極性など 40点
- ・ レポート (1回予定、演習課題) 30点
- ・ プレゼンテーション 30点 論文形式 (特定テーマ) で発表
- ・ 合計 100点

■欠席 6回以上は対象外

7. その他

履修の心得： 周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。

講義において随時、観光開発関連または各自研究テーマに関する論文 (英語、日本語) を精読し、要約および考察を発表してもらおう。

科目名	島嶼開発特論			担当教員 :
科目名(英語)	Special Lectures on Island Economies			メールアドレス :
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号 :
2	1, 2	Second (後期)		オフィスアワー

Course Goals and Methods :

Welcome to my special lecture on island sustainability focusing on islands of Okinawa. Upon completing this class, students should be able to learn various concepts and tools or model cases to analyze the current issues facing island sustainability such as socio-economic development and environmental conservation, work-life balance, sustainable community, sustainable agriculture, sustainable tourism, networking and human resources development and sustainable policies and management. Learn actual methods and practices of sustainability through visiting local communities, industry, typical tourism sites and public authorities. Construct your own sustainable models or arguments based on data / interviews/case studies. You are requested to present your field research findings and in-depth analysis toward the end of class. You are requested to submit a quality term paper at the end of this semester. This course aims at three Es, namely, **Empowerment, encouragement, and Enjoyment.**

1. Course Goals :

Upon completing this course, students should be able to conduct independent research on the subject.

2. Required and Optional Texts:

Hiroshi Kakazu, *Island Sustainability: Challenges and Opportunities for the Pacific Islands in a Globalized World*, Canada: Trafford Publishing, 2009.

Hiroshi Kakazu, *Sustainable Development of Small Island Economies*, Boulder: Westview Press, 1994.

Copies of these two books are reserved at the Meio library. You will be assigned reading materials from the above books and from other sources related to the subject. Reading materials will also be posted on my MEIO MEMBERS SNS site. You are expected to read these materials before your presence at my class.

3. Course Contents:

Week 1-Week 2: What is Nissology (study of islands)? Definitions, characteristics, and Sustainability

Week 3 -Week 4: Approach for Island Development, Global Issues and Island Societies

Week 5-Week 6: Networking Island Societies

Week 7-Week 8: Sustainable Development of Okinawa's Small Islands

Week 9-Week 10: Sustainable Island Community and Culture

Week 11-Week 12: Challenges for Sustainable Development

Week 13-Week 15: Class Presentations based on Field Studies

4. Grading Policy Based on 100 Points :

Class Participation, including class activities and discussion (50point)

Presentation and Term Paper (50point). Otherwise, Meio University's general grading rules will be applied.

Term papers must be submitted one week after your presentations through email or in hard copy in my office. Failure to submit by the deadline will constitute late submission. Late papers will be penalized 5 points for each

5. Class Rules : You are expected to abide by your university rules and academic standard. Particularly you should aware of the university Policy of Academic Honesty.

科目名	島嶼文化特論			担当教員：李 鎮榮
科目名(英語)	Island Cultures			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1091
2	1・2	後	213	オフィスアワー 火・金 13時から17時

1. 講義内容

日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」に在るだけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカリティー性について学習し、どういう開発の仕方が望ましいのか考察していく。

2. 履修要件

文化人類学関連科目の受講の理解が必要である。

3. テキスト

Helen Norberg-Hodge、*Ancient Futures*

4. 参考書

矢野暢、『国際化の意味』、NHK ブックス

Helen Norberg-Hodge、*Joint local is the answer*

その他、授業中適宜提供する。

5. 講義予定

- 第 1 回 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を定める。
- 第 2 回 「ではの杜」のロジック
- 第 3 回 「島嶼」とは。島嶼社会の定義と課題
- 第 4 回 倫理的消費・開発
- 第 5 回 中心と周辺：遠心性と求心性
- 第 6 回 資本と貧困：GDP と GHP
- 第 7 回 開発しない開発
- 第 8 回 境界性と境界理論
- 第 9 回 **Localization**
- 第 10 回 成功事例研究；タンザニア
- 第 11 回 国境ビジネス事例研究；中ソ
- 第 12 回 国境ビジネス事例研究：多民族国家の一国二制度
- 第 13 回 開発と破壊
- 第 14 回 従属経済の脱皮を目指して
- 第 15 回 総括

6. 評価方法

発表内容と授業への貢献度：50点

レポート（発表など）：50点

7. その他

講義の内容は受講生の学習準備度・理解力に合わせて調整する。

科目名	異文化接触特論			担当教員：李 鎮榮
科目名(英語)	Cultures in Contact			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1091
2	1・2	前	213	オフィスアワー
				火・金 13時から17時

1. 講義内容

既存の社会に新しい風穴を開けるのは常に「異人」である。異質なもの・異業種の集合体が繁栄することは容易に観察できる。この講義では、国境の越え方や境界を越境する意味について講義する。また、「異文化」を通して人間の普遍的な価値について構造人類学の観点からアプローチする。

2. 履修要件

文化人類学関連科目をセットで受講する必要がある。

3. テキスト

西川長夫他、『多文化主義・多言語主義の現在』、人文書院
ミシェル・ヴィブィオルカ、『差異』、バラン書店

4. 参考書

特に設けないが適宜紹介する。

5. 講義予定

- 第 1 回 自己紹介と方針, 予備知識のチェック, 発表の分担者を決める。
- 第 2 回 文化(言語)人類学の考え方
- 第 3 回 多文化主義・多言語主義の現在
- 第 4 回 文化の神話を超えて
- 第 5 回 カナダの多文化主義
- 第 6 回 フランスの多文化主義とケベックの選択
- 第 7 回 北部ケベックの先住民
- 第 8 回 カナダにおける先住民と先住民権
- 第 9 回 多文化国家オーストラリアの誕生とその現在
- 第10回 多文化主義と法の役割
- 第11回 先住権の行方
- 第12回 文化を創造する人々 **Stranger & Outsider**
- 第13回 非英語圏からの移住者にとっての課程と世代間変容
- 第14回 ポスト・エスニック・マルチカルチュラルイズム
- 第15回 総括

6. 評価方法

発表内容と授業への貢献度	50点
課題レポート(発表など)	50点
合計	100点

7. その他

講義の内容は受講生への学習準備度・理解力に合わせて調整する。

科目名	ホテル実務特論			担当教員：黒江 浩紹 (学外)
科目名(英語)	Hotel Management			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	非常勤講師 控室	講義終了後

1. 講義内容

沖縄の観光産業は、1972年の復帰以来順調に推移し、よくも悪しくも評価されてきた。では、沖縄観光の特徴はどのように変化してきたか。沖縄観光の競争優位はどこにあったのか。今後はどのような点で競争優位を発揮できるのか。このような沖縄観光の基本問題を、過去現在に分けて検討し、沖縄観光の将来方向を探ってみる。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

サービスマーケティング原理 クリストファー・ラブロック+ローレンライト著 白桃書房
MBA マーケティング 数江良一著 ダイアモンド社

4. 参考書

5. 講義予定

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 復帰前の沖縄観光
- 第3回 復帰から海洋博まで
- 第4回 海洋博（1975年）から1985年まで
- 第5回 1985年から1995年まで
- 第6回 1995年から2005年まで
- 第7回 現状の環境分析
- 第8回 現状の環境分析 2
- 第9回 現状の環境分析 3
- 第10回 課題の把握
- 第11回 課題の把握
- 第12回 将来方向と対策
- 第13回 将来方向と対策 2
- 第14回 現地視察
- 第15回 テスト

6. 評価方法

- 出席 30点
- レポート 40点
- テスト 30点
- 合計 100点

7. その他

【教育目標】

沖縄観光における本質、仕組み、役割、機能の理解を通じてマーケティング感覚を養う

科目名	エコツーリズム特論			担当教員：新垣裕治
科目名(英語)	Eco-Tourism			メールアドレス：y.arakaki@meioru.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1081
2	1・2	前期	202	オフィスアワー
月(4時限)・木(3時限)				

1. 講義内容

エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振興に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。

本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

環境省(2004)「エコツーリズム さあ、はじめよう」平凡社

4. 参考書

- ・スー・ビートン著・小林英俊訳(2002)「エコツーリズム教本—先進国オーストラリアに学ぶ実践ガイド」平凡社
- ・新井俊一他(1999)「エコツーリズムの世紀へ」エコツーリズム推進協議会
- ・敷田麻美編著(2008)「地域からのエコツーリズム」学芸出版社

5. 講義予定

- 第1回 講義概要・評価方法他について
- 第2回 沖縄県の観光の現状について
- 第3回 エコツーリズムとは(1)
- 第4回 エコツーリズムとは(2)
- 第5回 海外のエコツーリズム事情(1)
- 第6回 海外のエコツーリズム事情(2)
- 第7回 エコツーリズムへの取り組み(1)
- 第8回 エコツーリズムへの取り組み(2)
- 第9回 エコツーリズムとルール
- 第10回 エコツーリストとは
- 第11回 エコツアーと人材育成(1)
- 第12回 エコツアーと人材育成(2)
- 第13回 エコツーリズムと持続可能性(1)
- 第14回 エコツーリズムと持続可能性(2)
- 第15回 エコツーリズムの課題(まとめ)
- 第16回 試験

6. 評価方法

試験 80点
レポート 20点
合計 100点

5回以上欠稀した受講者は評価の対象にならない。

7. その他

科目名	観光市場分析特論			担当教員：岩佐 吉郎 (学外)
科目名(英語)	Marketing Analysis in Tourism			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	集中講義 (前期)	非常勤講師 控室	集中講義開講期間

1. 講義内容

本講義は、沖縄観光の現状と問題点、課題把握のために、全国的な旅行市場の動向、観光地の動向等の統計データ、資料に解説を加えながら、その把握手法について講義する。

本講義は、沖縄で唯一観光学科を有する本大学学生として、学生諸君が沖縄観光の現状と課題に対しての知見を持つとともに、観光動向に現状分析把握手法を理解して、国、県や市町村の観光行政における計画実務者向けの素養を修得することに力点をおく。

2. 履修要件

本科目履修にあたっては、講義内容に興味をもって受講することが望ましい。
とともに、必ず講義以外にも自主学習を必須とする。

3. テキスト

適宜レジメを配布する。

4. 参考書

「観光白書」内閣府

「JTB レポートー日本人の海外旅行の実態ー」(株) JTB

「観光の実態と志向」(社) 日本観光協会、その他は、講義中に紹介する。

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本人の国内旅行の実態と志向
- 第 3 回 日本人の海外旅行の動向
- 第 4 回 訪日外国人旅行の動向
- 第 5 回 レポートプレゼンテーション (旅行マーケット)
- 第 6 回 基本統計
- 第 7 回 国民の価値観、余暇志向
- 第 8 回 国内観光地の動向
- 第 9 回 関連産業利用統計
- 第 10 回 レポートプレゼンテーション (国民生活、観光地、観光産業)
- 第 11 回 沖縄を訪れる観光客の現状
- 第 12 回 観光経済波及効果
- 第 13 回 沖縄観光関連調査
- 第 14 回 レポートプレゼンテーション (沖縄観光)
- 第 15 回
- 第 16 回 試験

6. 評価方法

試験は実施せず、レポートプレゼン、5分間プレゼンで評価。全レポート実施者、活動状況70%以上を評価対象とする。レポートプレゼンテーションを怠ったものは評価不可とする。

7. その他

科目名	観光資源特論			担当教員：許点淑
科目名(英語)	Tourism resources			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1087
2	1・2	前期	208	オフィスアワー
月(18:00~19:30)・木(18:00~19:30)				

1. 講義内容

観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源の人類学的意味づけを行なうものである。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

資料は随時配布する。

4. 参考書

- ・江口信清 1998『観光と権力—カリブ海地域の観光現象—』多賀出版
- ・神崎宣武 1990『観光民俗学への旅』河出書房新社
- ・橋本和也 1999『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』世界思想社
- ・橋本和也・佐藤幸男編 2003『観光開発と文化』世界思想社
- ・石森秀三編 1996『観光の二〇世紀—二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容3』ドメス出版
- ・スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房
- ・山下晋司 1999『バリー観光人類学のレッスン』東京大学出版会
- ・吉川彰・松田素二編 2003『観光と環境の社会学』新曜社
- ・吉田春生 2003『エコツーリズムとマス・ツーリズム—現代観光の象徴』

5. 講義予定

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 観光資源と文化(1) |
| 第3回 | 観光資源と文化(2) |
| 第4回 | 観光とエスニック文化(1) |
| 第5回 | 観光とエスニック文化(2) |
| 第6回 | 観光とジェンダー(1) |
| 第7回 | 観光とジェンダー(2) |
| 第8回 | 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ(1) |
| 第9回 | 観光地イメージの形成：商品としてのハワイ(2) |
| 第10回 | 文化イメージの受容と価値の生産(1) |
| 第11回 | 文化イメージの受容と価値の生産(2) |
| 第12回 | 観光と売買春：東南アジアの事例を中心に(1) |
| 第13回 | 観光と売買春：東南アジアの事例を中心に(2) |
| 第14回 | 観光と考古学遺跡：カナダの事例 |
| 第15回 | まとめ |

6. 評価方法

活動状況(授業への参加の積極性)	50点
レポート	50点
合計	100点

7. その他

積極的に研究活動に取り組むこと。

科目名	島嶼生態学特論			担当教員：新垣 裕治
科目名(英語)	Island Ecology			メールアドレス：arakaki@mail.meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1081
2	1・2	後期	202	オフィスアワー
月(4時限)・木(3時限)				

1. 講義内容

島に棲息する生物と環境の関連、あるいは生物同士の関わりを生物の適応・進化・多様性などの観点から扱う分野が島嶼生態学である。本講義では、島嶼県である沖縄を島嶼生態学の観点から捉え、生物・自然・環境等の特徴を明らかにしていく。また、これら特徴は沖縄の観光資源としても極めて重要であるので、観光との関連についても言及を試みる。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

資料は随時配布する。

4. 参考書

- ・池原貞雄・加藤祐三 編著 1997 『沖縄の自然を知る』 築地書館
- ・西平守孝 編著 1991 『沖縄のサンゴ礁』 沖縄環境科学センター
- ・中村武久・中須賀常雄 1998 『マングローブ入門―海に生える緑の森―』 めんこ
- ・安間繁樹 2001 『琉球列島―生物の多様性と列島のおいたち―』 東海大学出版会
- ・幸地良仁 1991 『沖縄の川魚』 沖縄出版
- ・嵩原健二・当山昌直・小浜継雄・幸地良仁・知念盛俊・比嘉ヨシコ 1997 『沖縄の帰化動物―海をこえてきた生きものたち』 沖縄出版

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 琉球列島の生い立ち
- 第 3 回 サンゴ礁地形
- 第 4 回 サンゴ・サンゴ礁とは
- 第 5 回 サンゴ礁の生物たち (1)
- 第 6 回 サンゴ礁の生物たち (2)
- 第 7 回 マングローブとは
- 第 8 回 マングローブの生物たち (1)
- 第 9 回 マングローブの生物たち (2)
- 第10回 沖縄の川と生物たち (1)
- 第11回 沖縄の川と生物たち (2)
- 第12回 沖縄の森と生物たち (1)
- 第13回 沖縄の森と生物たち (2)
- 第14回 外来種をめぐる問題 (1)
- 第15回 外来種をめぐる問題 (2)
- 第16回 試験

6. 評価方法

活動状況 (授業への参加の積極性)	10点
レポート	40点
試験	50点
合計	100点

7. その他

特になし

科目名	観光文化特論			担当教員：許点淑
科目名(英語)	Special studies on Tourism and Culture			メールアドレス：HEO@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1087
2	1, 2	後期	208	オフィスアワー
月(18:00~19:30)・木(18:00~19:30)				

1. 講義内容

本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

資料は随時配布する(予定)。

4. 参考書

- ・青木保 1990 『「日本文化論」の変容』中央公論社
- ・遠藤英樹・堀野正人編著 2004 『「観光のまなざし」の転回』春風社
- ・永淵康之 1998 『バリ島』講談社
- ・橋本和也 1999 『観光人類学の戦略—文化の売り方、売られ方』世界思想社
- ・橋本和也・佐藤幸男編 2003 『観光開発と文化』世界思想社
- ・前川啓治・梶原景昭他訳 1992 『創られた伝統』紀伊国屋書店
- ・安村克己 2001 『観光 新時代をつくる社会現象』学文社
- ・安村克己・塚本瑠一・朝水宗彦編著 2001 『地域・観光・文化』嵯峨野書院
- ・エドワード・M・ブルーナー 2007 『観光と文化 旅の民族誌』学文社
- ・スミス、バーレン・L. 編著、三村浩史監訳 1991 『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房

5. 講義予定

- | | |
|------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 儀礼としての観光 |
| 第3回 | 観光と巡礼 |
| 第4回 | 観光の多様性 |
| 第5回 | 観光文化と真正性(1) |
| 第6回 | 観光文化と真正性(2) |
| 第7回 | ホストとゲスト |
| 第8回 | 贈与と観光(1) |
| 第9回 | 贈与と観光(2) |
| 第10回 | 地域文化と観光文化(1) |
| 第11回 | 地域文化と観光文化(2) |
| 第12回 | 文化の商品化(1) |
| 第13回 | 文化の商品化(2) |
| 第14回 | バリ芸能の生成 |
| 第15回 | まとめ |

6. 評価方法

活動状況(授業への参加の積極性)	50点
レポート	50点
合計	100点

7. その他

科目名	観光政策特論			担当教員：大谷 健太郎
科目名(英語)	Evaluation for Tourism Policy			メールアドレス：otani@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1088
2	1, 2	後	209	オフィスアワー
月曜3限、木曜3限				

1. 講義内容

近年、観光基本法を全面的に改正し、インバウンド・ツーリズムの推進や地域活性化などをキーワードにして観光立国推進基本法が施行された。観光による地域活性化の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的社会的効果を最大化することであり、その効果を予測および検証する政策評価の過程が重要である。

本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、地域の活性化を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。

2. 履修要件

学部において観光開発論や観光政策論、観光調査法などを履修していることが望ましい。

3. テキスト

宮嶋勝 (1990) 『公共政策論』学陽書房、1,500 円。講義毎の資料も配布する。

4. 参考書

相川哲夫・栗原伸一 (2001) 『政策評価手法論—農村地域のソフトシステム型計画における—』農林統計協会。

室谷正裕 (1998) 『新時代の国内観光—魅力度評価の試み—』運輸政策研究機構。

Hatry, H. P. (1999) *Performance Measurement: Getting Result*, The Urban Institute.

Levin, H. M. (1985) *Cost-Effectiveness: A Primer*, Sage.

寺前秀一 (2006) 『観光政策・制度入門』ぎょうせい。

土居英二編 (2009) 『はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営 (NPM) の実践—』

その他、講義中に紹介する。

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 観光開発と観光振興、地域政策について、観光の経済的効果および社会的効果
- 第 3 回 観光政策の検証とその実効性、期待される効果—観光基本法、観光立国推進基本法
- 第 4 回 観光立国推進基本法における政策展開—具体的内容と政策目的
- 第 5 回 地域の観光政策の検証—沖縄県観光振興計画、三重県観光振興プランなど
- 第 6 回 プレゼンテーション (観光政策関連分野における論文精読など)
- 第 7 回 政策マネジメントサイクル①—政策立案と事前評価
- 第 8 回 政策マネジメントサイクル②—効果の測定と事後評価
- 第 9 回 事前評価①—価値基準と客観性
- 第 10 回 事前評価②—需要予測、住民意向調査と地域の将来像
- 第 11 回 事後評価—アウトプットとアウトカム業績測定と費用対効果分析
- 第 12 回 観光政策評価①—社会調査と結果の分析、観光地魅力度の測定 (因子分析、AHP など)
- 第 13 回 観光政策評価②—施設・基盤整備計画 (費用便益分析、便益価分析など)
- 第 14 回 観光政策評価③—観光政策の事後評価 (達成度、総合評価など)
- 第 15 回 プレゼンテーション (各自研究分野における論文精読など)

6. 評価方法

- ・活動状況 (ディスカッション、参加積極性など) 40点
- ・レポート (1回予定、演習課題) 30点
- ・プレゼンテーション 30点 論文形式 (特定テーマ) で発表
- ・合計 100点

■欠席6回以上は対象外

7. その他

履修の心得：周辺分野に関する自発的、意欲的な自習を心がけて欲しい。

講義において随時、観光研究、政策科学、観光政策、関連または各自研究テーマに関する論文 (英語、日本語) を精読し、要約および考察を発表してもらう。